

令和4年度 自己評価結果

ひらやす保育園

1. 保育理念

子どもの幸せのため、子どもの権利条約（①生きる権利 ②育つ権利 ③守られる権利 ④参加する権利）を遵守し、人格主義の基本理念（誠実・忍耐・勤勉）と良心を育てる。

2. 保育方針

本園の教育・保育は園児の言語（英語を含む）、情緒、行動、社会性および身体の調和的発達を助長し、望ましい人間形成を目指すものである。

3. 保育目標

- ①情緒が豊かで明るい子ども
- ②よく考え、進んで行動する子ども
- ③仲良く遊び、協力し合う子ども
- ④身体が丈夫で逞しい子ども

4. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- ・ 保育所の特性を活かした保育の質の向上と保護者支援の充実
- ・ 仕事の効率化を図る

5. 評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	結 果	備 考
(1) 建学の精神や教育、保育理念に基づいた保育園の運営状況	B	
(2) 保育園の状況を踏まえた保育目標等の設定状況	A	
(3) 保育園の保育課程、保育方針について保育士間の共通理解	B	
(4) 保育園行事の管理・実施体制の状況	A	
(5) 年間の指導計画や週案などの作成の状況	A	
(6) 遊具・用具の活用	A	
(7) 保育士間の協力的な指導の状況	A	
(8) 乳幼児に適した環境に整備されているかなど、クラス経営の状況	A	
(9) 保育所保育指針の内容に沿った乳幼児の発達に即した指導の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境を通して行う保育の実施の状況 ・ 乳幼児との信頼関係の構築の状況 ・ 乳幼児の主体的な活動の尊重 ・ 遊びを通しての総合的な保育の状況 ・ 一人一人の発達の特性に応じた保育の状況 	A	
(10) 日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断実施状況	A	

(11) 事故等の緊急事態発生時の対応の状況	A	
(12) 法定の安全計画や防災計画等の作成・実施の状況	A	
(13) 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	A	
(14) 安全点検や、保育士の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	B	
(15) 個別の指導計画の作成の状況	A	
(16) 家庭との連携状況	A	
(17) 管理職の保育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況、また多くの保育士からの信頼の状況	A	
(18) 保育園の明確な運営・責任体制の整備の状況	A	
(19) 各種文書や個人情報等の保育園が保有する情報の管理の状況、また、保育士への情報の取り扱い方針の周知の状況	A	
(20) 労働基準法等の各種法令の遵守状況	A	
(21) 保育研究の継続的实施など、指導改善の取組の状況	A	
(22) 園内における研修の実施体制の状況	A	
(23) 園内研修の課題の設定の状況	B	
(24) 園内研修・園外研修の実施・参加状況	B	
(25) 指導が不適切である保育士の状況の把握と対応の状況	A	
(26) 保育目標の設定と自己評価の実施状況 ・乳幼児や保育園の実態、保護者の意見要望等を踏まえた保育園としての目標等の設定の状況 ・目標等を踏まえた自己評価の項目の設定状況 ・自己評価が年に1回以上定期的に実施されているかなどの実施状況 ・自己評価の結果の翌年度の目標等の改善への活用状況 ・全職員が評価に関与しているかなどの体制の状況 ・自己評価の結果の設置者への報告と状況	A	
(27) 保育園に対する保護者の意見・要望等の状況 ・保護者の満足度の把握の状況 ・保育相談体制の整備状況、保護者の意見や要望の把握・対応状況	A	
(28) 保育園に関する様々な情報の提供状況	A	

(29) 保育園公開の実施の状況	A	
(30) 乳幼児の個人情報の保護の状況	A	
(31) 自己評価結果の公表状況	A	
(32) 園便りやクラス便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供状況	A	
(33) 情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	A	
(34) 保護者の実情や要望による保育園の子育て支援活動の実施状況	A	
(35) 園や保育士による受け入れ体制の状況	A	
(36) 施設設備 ・施設設備の活用状況 ・施設・設備の安全・維持管理のための整備の状況	A	
(37) 遊具・用具・図書等 ・遊具・用具・図書等の整備状況 ・保育環境の充実のための取組状況	A	

6. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画の考察

結 果	理 由
A	<p>【園でできる子育て支援】 (保護者同士の交流の場の提供) 今年度はコロナ禍の中、感染症対策を講じた上で、出来る限り行事を決行した。クラスの時間をずらす、目隠し（仕切り）で、園児から保護者が見えない状態で参観してもらおうなど、様々な工夫で園での子ども達の姿を見てもらえた。また、参観日に親子競技などを取り入れ、保護者同士の交流の機会を作ることも心掛けた。</p> <p>(親子のコミュニケーション情報の発信) 園だよりやクラスだよりで、子育てに関する情報を積極的に発信した。個人面談で上がったお悩みを解決に導けるような情報や参観日では、親子のコミュニケーション法を提供できたと思う。</p> <p>【マスク着用による保育の工夫】 ・マスク越しでも感情が伝わるよう発声やボディランゲージを意識して子ども達と接した。朝の会や絵本の読み聞かせ時には、フェイスシールドを用いて口元を見せることで言葉の獲得に繋がるよう心掛けた。また、豊かな表現力や想像力が育まれるよう絵本の種類を増やし、読み聞かせの時間を多く作ったことで「聞く力」も身につけてきた。</p>

7. 総合的な評価結果

- ・今年度から本格的に保護者アプリ「コドモン」を活用し、保護者連絡、連絡帳、文書の掲載を行うことで、保護者との情報交換がスムーズに行われた。
- ・限られた職員数の中、時間を有効に使い、互いに協力し合うことで、園の清潔・安全維持に努めることが出来た。また、円滑に保育が進められるよう、職員内で意見交換を充実させ、保育に反映させることが出来た。
- ・栽培を通し、作物の成長を観察しながら育てる喜びを感じる事が出来た。しかし、不作で収穫の体験が出来なかったのが残念だった。

8. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none">・外部研修や園内研修に積極的に参加し、一人一人の資質の向上を図り、専門性を高める。・ヒヤリハット・事故報告書を振り返る園内研修を通し、職員の連携力を高め、安全を維持しながら質の高い保育に取り組む。
食育への取り組み	<ul style="list-style-type: none">・作物が健康に育つ条件を整え、栽培等の食育活動を通し、子ども達の食への関心が育つよう努める。・「食べることの楽しみ」を感じながら、自分で食べる事への意欲、簡単なマナーを身に付けられるよう援助していく。・咀嚼を促す言葉かけや噛む仕草を伝えることで、子どもの咀嚼力、嚥下力を促す。

◎「5. 6」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である